

ワークショップの実施要項

No.	項目	概要
1	ワークショップの目的	<p>①ワークショップを通して、教科においてのICT活用意図を明確にしたICTの活用方法とその効果を具体的に理解することができる。また自担当の教科にそれを転移させることができる。</p> <p>②ワークショップの手法を学校に持ち帰り、校内研修で自らがリーダーとなり実践する。</p>
2	ワークショップのデザイン	<ul style="list-style-type: none">・ 教科設定<ul style="list-style-type: none">- 社会 公民「社会の安全と人権-防犯カメラについて考える」・ 予め用意してある1コマ分の授業構想案に対して、どの場面で、どのような教育効果を狙って、ICTを有効活用するのかをワークショップ形式で議論し、授業を再構想する。・ 再構想した授業を各グループの代表者が発表。発表内容は以下の通り。<ul style="list-style-type: none">① ICTの活用場所、狙った教育効果、② ①に対する教師の具体的発問、生徒の反応予測、次展開の見通し・ 発表した内容を全体で省察する。
3	使用する機材/資料	<ul style="list-style-type: none">・ 授業設計をするための個人ワークシート・ グループ発表用シート・ 発表内容が投影できるプロジェクター (必要に応じて使用するもの)・ 電子黒板・ タブレット (各グループに配布)・ 授業支援アプリケーション
4	実施	<ul style="list-style-type: none">・ グループ分け・ グループリーダー選出 (ファシリテーター役)・ 書記係選出・ 発表
5	講評	<ul style="list-style-type: none">・ 校内研修では教務主任もしくは管理職

個人配布用ワークシート（案）

学習指導要領	1 目標 (1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義，特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ，民主主義に関する理解を深めるとともに，国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。 (2) 民主政治の意義，国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて，個人と社会とのかかわりを中心に理解を深め，現代社会についての見方や考え方の基礎を養うとともに，社会の諸問題に着目させ，自ら考えようとする態度を育てる。 2 内容 (4) 現代社会をとらえる見方や考え方 人間は本来社会的存在であることに着目させ，社会生活における物事の決定の仕方，きまりの意義について考えさせ， 現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として，対立と合意，効率と公正などについて理解させる。 その際， 個人の尊厳と両性の本質的平等，契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任などに気付かせる。
---------------	---

科目	社会 公民	単元	単元：人間の尊重と日本国憲法 小単元：監視カメラの設置
-----------	-------	-----------	--------------------------------

学習目標	防犯カメラの事例から、社会の安全と人権尊重がせめぎ合う状況を読み取り、考察する。 社会の安全と人権尊重について、地域住民の一人として考える。
-------------	---

本時のめあて	それぞれの立場や考え方の違いを理解したうえで，自分の考えをもとう。
---------------	-----------------------------------

生徒の実態	・ 35人クラス（男子20人、女子15人） このクラスの生徒は、社会科に対する学習意欲は旺盛であり、授業の導入等で毎時間取り上げている時事に関する話題へも積極的な反応がみられる。 発表は偏った生徒になることが多い。
--------------	---

評価	・ 対立を合意に導くために、立場や利害の違いを把握したか。（知識・理解） ・ 対立を合意に導くための、方策を考えたか。（思考・判断・表現） ・ 具体的な事例を知り、対立と合意の考え方を理解したか。（知識・理解）
-----------	---

授業の流れ	活動記号	ICT活用意図（目的）	ICT活用方法（例）タブレットに画像配信	教師の発問等備考
	導入	おおまかな授業の流れ A. 事例の提示【板書】 鉄人28号盗難事件 -防犯カメラに映っていた犯人画像の公開の是非 ・ 事件の詳細はプリント配布		
	展開	B. 紙のワークシートを配布【紙ワークシートの配布】 事例に対する賛否とその理由を記入 C. 意見の一覧化【板書】 意見を書いた紙のワークシートを模造紙に貼り、意見の違いを図にまとめる。 同様の意見は1か所にまとめる。 D. 意見交換【ディスカッション】 リーダーを決めて、対立する意見に対してのどのようにアドバイスしたらよいか意見交換する。（賛成派、反対派に分かれて） E. グループ発表 対立する意見に対してグループで出した答えを発表する		
	まとめ	F. 全体発表【挙手指名】 対立から合意を導くためにどのようにしたらよいか考え発表する。 G. まとめ【板書】 全体発表をもとに「対立」と「合意」についての考え方と合意までの導き方をまとめる。		

個人配布用ワークシート（案）

学習指導要領		1 目標 (2) 三角形や平行四辺形などの面積及び直方体などの体積を求めることができるようにする。 2 内容 B 量と測定 (1) 図形の面積を計算によって求めることができるようにする。ア 三角形, 平行四辺形, ひし形及び台形の面積の求め方を考えること。 【算数的活動】 三角形, 平行四辺形, ひし形及び台形の面積の求め方を, 具体物を用いたり, 言葉, 数, 式, 図を用いたりして考え, 説明する活動			
学年 科目		5年生 算数	面積の求め方を考えよう 小単元: 平行四辺形の面積の求め方を考えよう。13/14校時		
学習目標		平行四辺形の面積の求め方を, 既習の求積できる長方形に変形して, 言葉や図, 式を使って説明することができる。			
本時のめあて		平行四辺形の面積の求め方を考えよう。			
児童の実態		・ 35人クラス (男子20人, 女子15人) クラス全体, 算数全般を通して, 既習を生かす考え方が定着していない。 クラス全体を通して, 図や言葉で説明することを苦手としている。			
評価		・ 平行四辺形, 三角形, 台形, ひし形などの面積について, 既習の面積の求め方に帰着させて考え, 計算で求めようとする。(関心・意欲・態度) ・ 既習の面積の求め方を基に, 平行四辺形, 三角形, 台形, ひし形などの 面積の求め方を工夫して考え , 公式を作り出すことができる。(数学的な考え方) ・ 平行四辺形, 三角形, 台形, ひし形などの面積を公式を用いて求めることができる。(技能) ・ 平行四辺形, 三角形, 台形, ひし形などの計算による面積の求め方を理解する。(知識・理解)			
授業の流れ	導入	活動記号 おおまかな授業の流れ 【 】内は活動	I C T活用意図 (目的)	I C T活用方法 (例) タブレットに画像配信	教師の発問等備考
	展開	A : 既習の面積の振り返り【挙手指名】 (ア) 正方形, (イ) 長方形を実物提示 図形の名称と面積の公式を確認, 面積を求める。【板書】 ・ 新しい事項の提示 (ウ) 平行四辺形を提示 (イ) と (ウ) ではどちらが面積が大きいと考えさせる			
	まとめ	B : めあての提示【板書】 C : 見通しを立てる【紙ワークシートの配布】 方眼紙に平行四辺形が書かれた紙ワークシートを配布し, ノートに貼らせる。 既習事項を想起させ, 面積の求め方を考えさせる D : 自力解決した結果を隣席の児童に説明するよう指示 -友達の考えのよいところ, 自分の考えとの共通点を見つけるように指示 E : 発表【意図的指名】 異なるパターンの求積方法を選定 新たに発見したこと, 自分との共通点, 相違点に注意し, 発表を聞くように指示。 F : まとめ【板書】 「平行四辺形の面積は長方形に形を変えると求めることができる。」 G : 適応問題【ノート記入】			

ワークショップ グループ発表用ワークシート (まとめ)

No.	活動記号	<u>ICT活用意図(目的)</u> 1.子どもの知識・理解を深める。 2.子どもの表現を高める。 3.子どもの思考を深める。 4.子どもの説明・発表を支援する。 5.子どもが繰り返し練習する。 6.子どもの関心・意欲を高める。	ICT活用方法
1			
2			

会場レイアウト 例

